

【石狩市】校務DX計画

1. 市におけるこれまでの取組

(1) 教職員と保護者間の連絡等のデジタル化

- 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービス（小中学校向け保護者連絡ツール）を用いてPC等の端末から受付できるよう環境整備
- 学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービス（小中学校向け保護者連絡ツール）を用いて一斉配信できるよう環境整備
- 保護者への調査・アンケートについて、クラウドサービス（Microsoft FormsおよびTeams）で実施できるよう環境整備

(2) 教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

- 児童生徒一人一人に配備された端末を家庭で利用できるよう、持ち帰りの実施
- 児童生徒への各種連絡をクラウドサービス（Microsoft Teams）を用いて配信できるよう環境整備
- 児童生徒への調査・アンケートについて、クラウドサービス（Microsoft FormsおよびTeams）で実施できるよう環境整備
- クラウドサービスを活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れることができるよう環境整備
- 授業や宿題でAIドリルが使用できるよう環境整備

(3) 学校内の連絡等のデジタル化

- 職員会議や教職員間の情報共有および各種連絡をクラウドサービス（Microsoft Teams）を用いて配信できるよう環境整備（ペーパーレス化）
- 授業研究会や校内研修等で協議をクラウドサービス（Microsoft Teams）を用いてオンライン参加・配信できるよう環境整備
- 児童生徒への調査・アンケートについて、クラウドサービス（Microsoft FormsおよびTeams）で実施できるよう環境整備
- クラウドサービスを活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れることができるよう環境整備
- 授業や宿題でAIドリルが使用できるよう環境整備

(4) その他校務環境のデジタル化

○学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいよう、データ格納環境・領域の確保

○統合型校務支援システムの導入（北海道における共同利用環境）

2. 校務DX化チェックリストを踏まえた市における課題と今後の取組

(1) クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

○教員の働き方改革にもつながるよう、クラウド型の保護者コミュニケーションシステムの積極的な活用を順次進めているほか、教職員間の情報共有（会議資料や教材等）に対して、クラウドサービスなどの活用を更に推進し、教員のデジタル活用能力の一層の向上にもつなげていく

(2) FAXでのやり取り・押印の廃止

○これまで教育委員会や教職員間の提出書類についての押印廃止に取り組んでいる。今後は改めて実態把握を行い、例外的に必要と考えられる業務以外でのFAXの利用廃止や押印廃止に向け、さらに取り組みを進めていく

(3) 次世代校務DX環境の整備

○ネットワーク統合（校務用・学習用）と汎用クラウドツールの活用を前提とし、パブリッククラウド上で運用できるよう、セキュリティ対策（ゼロトラスト化）や指導用端末と校務用端末の一本化を実施し、インターネット上で校務支援システムを利用することができることで、校務のロケーションフリー化を目指す